

2014（平成 26）年度

# 日本医学会年次報告

2015 年 2 月 18 日

日本医学会

# 目 次

1. 日本医学会総会	1
1) 「第 29 回日本医学会総会 2015 関西」の準備	1
2. 日本医学会幹事会	3
3. 日本医学会定例評議員会	4
4. 日本医学会シンポジウム	4
1) 日本医学会シンポジウム	4
2) 日本医学会シンポジウム企画委員会	5
3) 日本医学会シンポジウム記録 (DVD)	5
4) 日本医学会シンポジウムの要旨	5
5. 日本医学会公開フォーラム	6
1) 日本医学会公開フォーラム	6
2) 日本医学会公開フォーラム企画委員会	6
3) 日本医学会公開フォーラム記録 (DVD)	7
6. 日本医学会医学用語管理委員会	7
7. 日本医学会分科会用語委員会	8
8. 日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会	8
9. 日本医学会加盟検討委員会	10
10. 日本医学会臨床部会運営委員会	10
11. 日本医学会臨床部会運営委員会「専門医制に関する委員会」	11
12. 日本医学会臨床部会運営委員会「遺伝子・健康・社会」検討委員会	11
13. 「母体血を用いた出生前遺伝学的検査」施設認定・登録部会	12
14. 日本医学会臨床部会運営委員会「がん領域に関する作業部会」	12
15. 日本医学会利益相反委員会	12
16. 日本医学会分科会利益相反会議	13
17. 日本医学雑誌編集者組織委員会	14
18. 日本医学雑誌編集者会議 (JAMJE)	15
19. 日本医学会あり方委員会「日本医学会総会のあり方に関する作業部会」	15
20. 移植関係学会合同委員会	16
21. 日本医学会だより	16
22. 情報発信	16
23. 会議等の開催数	17
24. その他	18

綴じ込み

日本医学会だより No.51 .....	19
日本医学会だより No.52 .....	21
臨床研究の法制化には慎重な対応を.....	23
新たな健診の基本検査の基準範囲（日本人間ドック学会・健保連） に対する日本医師会・日本医学会の見解について.....	24
日本人間ドック学会および健康保険組合連合会が公表した「新たな健診の基本 検査の基準範囲」に対する日本医師会・日本医学会の見解について（補足）.....	27
12/10 HPV シンポジウムを終えての座長とりまとめ .....	29

# 1. 日本医学会総会

## 1) 「第29回日本医学会総会2015関西」の準備

「医学と医療の革新を目指して－健康社会を共に生きるきずなの構築－」をメインテーマとした「第29回日本医学会総会2015関西」の準備としては、組織委員会のもと、各委員会を招集し、討議を重ね、2015年1月現在、概要は下記のとおりである。

### 1. 学術講演関係

・開／閉会講演、特別講演／特別企画について、以下の通り決定した。

#### ①開会講演『iPS細胞研究の現状と医療応用に向けた取り組み』

座長：副会頭 平野 俊夫先生

演者：山中 伸弥先生

#### ②会頭講演『日本の未来のために、いま医学・医療は何をなすべきか』

座長：日本医学会長 高久 史磨先生

演者：会頭 井村 裕夫先生

#### ③日本医師会会長講演

『日本医師会の医療政策～健康な高齢社会の構築を目指して～』

座長：副会頭 山岸 久一先生

演者：日本医師会会長 横倉 義武先生

#### ④日本医学会会長講演『わが国の医学研究の方向性』

座長：副会頭 森 洋一先生

演者：日本医学会長 高久 史磨先生

#### ⑤記念講演『日本における高齢化と真の健康社会』

座長：副会頭 高井 義美先生

演者：日野原 重明先生

#### ⑥閉会講演『医学と倫理－『利他の心』で世のため人のために尽くす－』

座長：会頭 井村 裕夫先生

演者：稲盛 和夫氏

## ⑦特別企画

- (1) 「地域包括ケアと医師の使命」
- (2) 「勤務医と地域医療連携」
- (3) 「皆でつくる健康社会」
- (4) 「健康社会を支える医と産業の新しい連携～新医療時代の開花に向けて～」

・会場は、国立京都国際会館／グランドプリンスホテル京都／京都大学百周年時計台記念館／京都劇場の4施設23会場を利用する。

・プレイベント企画として以下イベントを開催した。

### ①医療チーム学生フォーラム

8月18～20日 高野山夏合宿

11月30日 分科会

### ②近畿医師会連合プレイベント

9月7日（日） 奈良県医師会

『奈良県医師会と第29回日本医学会総会2015関西との共催シンポジウム』

9月28日（日） 京都府医師会

『第40回京都医学会』

10月19日（日） 兵庫県医師会

『第67回兵庫県医師会医学会』

11月9日（日） 大阪府医師会

『平成26年度（第38回）大阪府医師会医学会総会』

12月20日（土） 滋賀府医師会

『第31回滋賀医学会総会』

## 2. 展示関係

・学術展示については、以下4つのテーマ展示をもとに企画立案した。

- ①きずなと見守りの刷新－近未来のかかりつけ医
- ②ITがもたらす情報化社会の新たな医療環境
- ③ロボットテクノロジーによる機能再生医療の最先端
- ④iPS細胞で臨床現場はこう変わる

- ・一般公開展示“未来医 XPO' 15”については、4つのアイランド（スマート、メディカル、サイエンス、ヘルスケア）において、展示や講演等詳細を策定した。また、「ポートアイランドサイエンスツアー」や「災害・救急医療展示」「疾患啓発セミナー」等も実施予定。
- ・医学史展については、テーマを「医は意なる～命をまもる知のあゆみ～」とし、展示パネルの作成や図録の編集作業を行った。

### 3. その他

- ・事前参加登録の促進を目的とし、各都道府県医師会や地区医師会を訪問。
- ・総会告知のため、「総会ガイド」や「医総会ナビ」を発刊。
- ・宿泊ホテルおよびツアーの申込受付。
- ・市民参加イベント「医総会 WEEK」のプログラム策定。

### 4. 事務局

「第 29 回日本医学会総会 2015 関西」組織委員会事務局

〒 606-8507 京都府京都市左京区聖護院川原町 54

京都大学医学部附属病院 北病棟 7 階 呼吸器内科内

Tel/Fax: 075-752-6025 E-mail:jimukyoku@isoukai2015.jp

URL:<http://www.isoukai2015.jp/>

事務局長：中村 泰三

## 2. 日本医学会幹事会

第 11 回日本医学会幹事会を、平成 27 年 2 月 18 日（水）に開催。主な議題は、「平成 26 年度日本医学会年次報告」、「平成 27 年度日本医学会事業計画」、「日本医学会新規加盟学会」等である。

### 3. 日本医学会定例評議員会

第 82 回日本医学会定例評議員会を,平成 27 年 2 月 18 日(水)に開催. 主な議題は,「平成 26 年度日本医学会年次報告」,「平成 27 年度日本医学会事業計画」,「日本医学会新規加盟学会」等である.

### 4. 日本医学会シンポジウム

#### 1) 日本医学会シンポジウム

次のとおり 3 回開催した.

- ・日本医学会特別シンポジウム(第 29 回日本医学会総会 2015 関西イベント)

テ ー マ:健康社会をめざす医学・医療の新たな展開

開 催 日:平成 26 年 7 月 10 日(木)

開催場所:グランフロント大阪 ナレッジシアター

参加者数:128 名

- ・日本医師会・日本医学会合同シンポジウム

テ ー マ:子宮頸がんワクチンについて考える

開 催 日:平成 26 年 12 月 10 日(水)

開催場所:日本医師会館大講堂

参加者数:289 名

- ・第 146 回日本医学会シンポジウム

テ ー マ:がんの非侵襲的診断法の最前線

開 催 日:平成 26 年 12 月 18 日(木)

開催場所:日本医師会館大講堂

組織委員:坂元 亨宇(慶應義塾大学医学部・病理学)

西尾 和人(近畿大学医学部・ゲノム生物学)

藤井 博史(国立がん研究センター東病院・機能診断開発分野)

参加者数：188名

## 2) 日本医学会シンポジウム企画委員会

日本医学会シンポジウム企画委員会（委員：栗原裕基，坂元亨宇，小室一成，前原喜彦，武林 亨）は，日本医学会シンポジウムの基本方針，テーマおよび組織委員について，企画構成を行う。今年度は，次のとおり開催した。

・第21回日本医学会シンポジウム企画委員会（平成26年5月14日）

第146回シンポジウムのテーマを決定した。

テ ー マ：がんの非侵襲的診断法の最前線

・第22回日本医学会シンポジウム企画委員会（平成26年11月19日）

第147回シンポジウムのテーマを決定した。

テ ー マ「わが国の高齢者医療をめぐる諸問題」

## 3) 日本医学会シンポジウム記録（DVD）

「日本医学会特別シンポジウム」，「日本医師会・日本医学会合同シンポジウム」，「第146回日本医学会シンポジウム」の全容を，DVDに制作し，関係各位に謹呈した。

また，DVDの内容は，日本医学会ホームページの「Onlineライブラリー」の項で映像配信した（URL：<http://jams.med.or.jp/>）。

## 4) 日本医学会シンポジウムの要旨

要旨は，日本医師会雑誌に次のとおり掲載した。日本医学会特別シンポジウム「健康社会をめざす医学・医療の新たな展開」：第143巻第7号（平成26年10月号），第146回シンポジウム「がんの非侵襲的診断法の最前線」：第143巻第12号（平成27年3月号予定）

## 5. 日本医学会公開フォーラム

### 1) 日本医学会公開フォーラム

次のとおり2回開催した。

#### ・第17回日本医学会公開フォーラム

テ ー マ：肺がん－最新のトピックス－

開 催 日：平成26年6月21日（土）

開 催 場 所：日本医師会館大講堂

組織委員長：中川 健（がん研究会有明病院名誉院長）

参加者数：245名

#### ・日本医学会特別公開フォーラム～第29回日本医学会総会2015関西プレイベント～

テ ー マ：いのちを考える

開 催 日：平成27年2月7日（土）

開催場所：京都劇場（京都駅隣接）

総合司会：高橋 良輔（第29回日本医学会総会2015関西プログラム委員長／  
京都大学大学院医学研究科臨床神経学教授）

参加者数：296名

### 2) 日本医学会公開フォーラム企画委員会

日本医学会公開フォーラム企画委員会（委員：跡見 裕，池田康夫，南 砂，小森 貴）は，日本医学会公開フォーラムの基本方針，テーマおよび組織委員について，企画構成を行う。今年度は，次のとおり2回開催した。

#### ・第18回日本医学会公開フォーラム企画委員会（平成26年5月14日）

企画委員会で日本医学会特別公開フォーラム～第29回日本医学会総会2015関西プレイベント～を下記のとおり決定した。

テ ー マ：いのちを考える

総合司会：高橋 良輔（第29回日本医学会総会2015関西プログラム委員長／

京都大学大学院医学研究科臨床神経学教授)

・第19回日本医学会公開フォーラム企画委員会(平成26年11月19日)

企画委員会で第18回日本医学会公開フォーラムを下記のとおり決定した。

テ　　マ：前立腺がん

組織委員長：野々村祝夫〔大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学(泌尿器科)教授〕

### 3) 日本医学会公開フォーラム記録(DVD)

「第17回日本医学会公開フォーラム：肺がん－最新のトピックス－」のフォーラムの全容を、DVDに制作し、関係各位に謹呈した。

また、DVDの内容は、日本医学会ホームページの「Onlineライブラリー」の項で映像配信した(URL:<http://jams.med.or.jp/>)。

## 6. 日本医学会医学用語管理委員会

日本医学会医学用語管理委員会は、委員長：脊山洋右(医学中央雑誌刊行会理事長)、副委員長：大江和彦(東京大学大学院教授)、小野木雄三(国際医療福祉大学三田病院教授)、河原和夫(東京医科歯科大学大学院教授)、坂井建雄(順天堂大学大学院教授)、清水英佑(中央労働災害防止協会労働衛生調査分析センター所長)、田中牧郎(国立国語研究所准教授)、辻　省次(東京大学大学院教授)、森内浩幸(長崎大学大学院教授)、山口　巖(茨城県総合健診協会会長)、山口俊晴(癌研有明病院副院長)の11名により構成されている。

本年度は以下のように3回開催した。第9回医学用語管理委員会(平成26年7月24日開催)、第10回医学用語管理委員会(平成26年11月4日開催)、第11回医学用語管理委員会(平成26年12月19日開催)。

## 7. 日本医学会分科会用語委員会

平成 26 年度日本医学会分科会用語委員会を 12 月 19 日に開催した。主な議題は、1. 疾病、傷害及び死因分類の改正と WHO における国際統計分類の検討状況について、2. 日本医学会医学用語辞典改訂について、3. 「奇形」という医学用語を考える、4. 電子カルテ用標準病名マスターについての報告、5. 神経疾患における用語統一に向けての課題、6. 質疑応答等である。

## 8. 日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会

医学賞・医学研究奨励賞の選考作業は、日本医学会が日本医師会より委任されているもので、本年度は平成 26 年 9 月 3 日（水）に開催した。

委員構成は会長・副会長・幹事を中心に構成。これに特例委員として、小川 聡（国際医療福祉大学三田病院病院長）、秋澤忠男（昭和大学客員教授）、辻 省次（東京大学大学院医学系研究科脳神経医学専攻長）、中村耕三（国立障害者リハビリテーションセンター総長）、高橋 浩（日本医科大学大学院教授）、堀江重郎（順天堂大学医学部教授）、の 6 氏が加わった。

結果は、次のとおり医学賞 3 名、医学研究奨励賞 14 名が選考され、11 月 1 日の日本医師会設立記念医学大会において表彰された。なお、医学賞受賞者の論文を日本医師会雑誌（第 143 巻第 9 号）に掲載した。

[平成 26 年度日本医師会医学賞]

- ・ピロリ菌による胃癌発症の分子機構  
    畠山 昌則（東大・微生物学）
- ・癌の分子標的予防法の確立とその応用に向けての研究  
    酒井 敏行（京府医大・分子標的癌予防医学）
- ・自己免疫疾患に対する分子生物学的解析／

山本 一彦 (東大・アレルギー・リウマチ学)

[平成 26年度日本医師会医学研究奨励賞]

- ・ 中枢神経・肝臓クロストークの分子メカニズムの解明  
井上 啓 (金沢大・肝インターフェースメディスン研究センター)
- ・ 筋萎縮性側索硬化症の新規モデル動物作成による発症病態の解明  
河原 行郎 (阪大・神経遺伝子学)
- ・ 癌細胞特異的な TGF- $\beta$  シグナル伝達制御機構の統合的同定解析  
鯉沼 代造 (東大・分子病理学)
- ・ 癌上皮間葉移行における microRNA 転写機構の解明  
水口 義昭 (日医大・消化器外科学)
- ・ 下部尿路機能障害における全身および局所血流障害からみた病態解明と臨床応用  
松本 成史 (旭川医大・腎泌尿器外科学)
- ・ 滲出型加齢黄斑変性の発症、進展における全身的因子の解析  
柳 靖雄 (東大・眼科学)
- ・ 超高齢化社会における失明予防のための緑内障ビクデータによるデータマイニング  
中澤 徹 (東北大・眼科学)
- ・ 遺伝性不整脈の新たな原因遺伝子と機序の解明ならびに個別化両方の確立  
渡部 裕 (新潟大・循環器内科学)
- ・ 心筋症の発症・進展における樹状細胞の意義  
安齊 俊久 (国立循環器病研究センター)
- ・ 思春期特発性側弯症に対する次世代型 3次元変形矯正固定術：アナトミカル・ロッド  
須藤 英毅 (北大・脊椎・脊髄先端医学)
- ・ 内耳再生医療をめざした内耳薬物動態の解明  
神崎 晶 (慶大・耳鼻咽喉科学)
- ・ ヒト人工多機能幹細胞由来心筋細胞 Extracellular matrix (ECM) グラフトを用

いた心不全治療の開発

宮城 泰雄（日医大・心臓血管外科学）

・増殖因子と細胞内シグナル制御による糖尿病網膜症の病的血管の再生治療

鈴間 潔（長崎大・眼科学）

・ヒト無精子症の病態解明および臨床医学への応用

宮本 敏伸（旭川医大・産婦人科学）

## 9. 日本医学会加盟検討委員会

日本医学会加盟検討委員会の委員は、委員長：久道 茂（日本医学会副会長／宮城県対がん協会会長）、委員：佐谷秀行（慶應義塾大学医学部教授）、深山正久（東京大学大学院医学系研究科教授）、松島綱治（東京大学大学院医学系研究科教授）、今中雄一（京都大学大学院医学研究科教授）、中村裕之（金沢大学医薬保健研究域医学系教授）、川崎誠治（順天堂大学医学部主任教授）、島田和幸（小山市市民病院病院長）、坂田隆造（京都大学大学院医学研究科教授）、別役智子（慶應義塾大学医学部教授）、田宮菜奈子（筑波大学医学医療系教授）、天谷雅行（慶應義塾大学病院副病院長）、辻 一郎（東北大学大学院医学系研究科教授）の13名である。

平成26年度第1回日本医学会加盟検討委員会は平成26年10月22日に開催した。今年度の加盟申請の22学会についての審査を慎重に行い、その結果を日本医学会協議会に提出した。因みにこの審査は、日本医学会加盟検討委員会報告（平成23年7月）に示された新たな審査基準に基づいて行われている。

## 10. 日本医学会臨床部会運営委員会

日本医学会臨床部会運営委員会の委員は、10学会の基本領域学会と2学会のSubspecialty学会から構成している。基本領域学会委員：小池和彦、五十嵐隆、島田

眞路，武田雅俊，國土典宏，持田讓治，小西郁生，石橋達朗，八木聰明，行岡哲男。  
Subspecialty 学会委員：田尻久雄，西山正彦。

## 11. 日本医学会臨床部会運営委員会「専門医制に関する委員会」

日本医学会臨床部会運営委員会「専門医制に関する委員会」の委員は，池田康夫（日本専門医機構理事長），千田彰一（徳島文理大学副学長），里見 進（東北大学総長），寺本民生（帝京大学臨床研究センターセンター長），有賀 徹（昭和大学病院長），丸山 泉（医療法人社団豊泉会理事長），横田俊平（国際医療福祉大学熱海病院病院長），吉村泰典（慶應義塾大学名誉教授）の8名から構成されている。

## 12. 日本医学会臨床部会運営委員会「遺伝子・健康・社会」検討委員会

平成23年度に発足した委員会で，日本医学会として遺伝情報の取り扱い，検査の質保証，提供体制などに取り組むことを目的としている。委員長：福嶋義光（信州大学医学部教授），委員：鎌谷直之（株式会社スタージェン情報解析研究所長），高田史男（北里大学大学院医療系研究科臨床遺伝医学教授），中村清吾（昭和大学医学部乳腺外科教授／大学病院プレストセンター診療科長），宮地勇人（東海大学医学部基盤診療医学系臨床検査学教授），横田俊平（国際医療福祉大学熱海病院長），小西郁生（京都大学大学院産婦人科学教授）の7名で構成されている。

第8回委員会は，平成26年5月29日に開催した。主な議題は，1. NIPT 施設認定・登録部会，2. わが国に於ける遺伝性乳癌卵巣癌診療体制の構築，3. 遺伝子検査ビジネス関連の動向。

第9回委員会は，平成26年12月4日に開催し，主な議題は，1. NIPT 現状報告と課題，2. 遺伝性乳癌卵巣癌総合診療体制制度，3. 遺伝医療，“遺伝子検査”ビジネスにまつわる動き等であった。

第10回委員会は、平成27年2月24日に開催予定。

### 13. 「母体血を用いた出生前遺伝学的検査」施設認定・登録部会

日本医学会臨床部会運営委員会「遺伝子・健康・社会」検討委員会の部会として平成25年3月に発足し、主に施設の認定、登録を行っている。久具宏司（委員長：東京都立墨東病院産婦人科部長）、澤 倫太郎（日本医科大学女性生殖発達病態学講師）、榑原秀也（横浜市立大学産婦人科准教授）、川目 裕（東北メディカル・バンク機構教授）、高田史男（北里大学大学院医療系研究科臨床遺伝学教授）、丸山英二（神戸大学大学院法学研究科教授）の6名により構成されている。

### 14. 日本医学会臨床部会運営委員会「がん領域に関する作業部会」

日本医学会臨床部会運営委員会「がん領域に関する作業部会」を、平成25年に発足した。部会長：門田守人（がん研究会有明病院病院長）、委員：池田康夫（日本専門医機構理事長）、大江裕一郎（日本臨床腫瘍学会理事長）、西山正彦（日本癌治療学会理事長）、野田哲生（日本癌学会理事長）、平岡真寛（日本がん治療認定医機構理事長）の6名で構成。

平成25年度の3回の議論を踏まえて、「がん領域に関する専門医制度」についての提言をまとめ、平成26年5月16日、池田康夫日本専門医機構理事長宛に提出した。

### 15. 日本医学会利益相反委員会

平成22年度に発足した「日本医学会臨床部会利益相反委員会」を、平成24年度に「日本医学会利益相反委員会」に改称した。委員長：曾根三郎（徳島大学名誉教授／

徳島市病院局 徳島市病院事業管理者), 委員:土岐祐一郎(大阪大学大学院医学系研究科消化器外科学教授), 萩原誠久(東京女子医科大学大学院医学研究科主任教授), 朴 成和(国立がん研究センター中央病院消化内科長), 前川 平(京都大学医学部附属病院輸血細胞治療部教授), 平井昭光(レックスウェル法律特許事務所所長)の6名で構成。

第10回委員会は、平成26年7月3日に開催した。主な議題は、①日本医学会利益相反委員会委員のCOI自己申告書案、②日本医学会利益相反会議の開催(アンケート調査、時期、テーマなど)、③日本医学会COIマネジメント研修セミナー第一回研修セミナー報告(82学会95名出席、一般参加者113名)、第二回開催、④COI教育用スライドキットの作製、⑤COIマネジメントへの相談受け入れと指導、⑥医学系研究の倫理指針改定動向の情報提供、⑦日本製薬工業協会並びに全国医学部長病院長会議との連携等、⑧COI申告書の統一化(例:ICMJE)、日本医学雑誌編集者組織委員会との連携、⑨日本医学雑誌編集者組織委員会活動報告等について意見交換を行った。

第11回委員会は、平成26年11月28日に開催した。主な議題は、①アンケート調査結果説明、②第5回日本医学会分科会利益相反会議について、③日本医学雑誌編集者組織委員会活動報告等であった。

## 16. 日本医学会分科会利益相反会議

第5回日本医学会分科会利益相反会議は、平成26年11月28日に開催した。詳細は、日本医学会ホームページに掲載したので、参照いただきたい。

総会に引き続き、シンポジウムは、曾根三郎(徳島大学名誉教授/徳島市病院局 徳島市病院事業管理者), 土岐祐一郎(大阪大学大学院医学系研究科消化器外科学教授)の司会の下、下記のプログラムで開催された。

- ・日本医学会分科会におけるCOIマネジメントのアンケート結果報告/前川平(京都大学医学部附属病院輸血細胞治療部教授)

- ・フォルタレザ改訂ヘルシンキ宣言の基本理念と臨床研究－作業部会の一員として－／畔柳達雄（日本医師会参与／弁護士）
- ・欧米の臨床研究にかかる COI マネージメントの現状と動向／朴 成和（聖マリアンナ医科大学教授）
- ・製薬企業による研究機関への研究支援とその公開の在り方／田中徳雄（日本製薬工業協会常務理事）
- ・臨床研究にかかる企業の薬務提供をどう考えるか／平井昭光（レックスウェル法律特許事務所所長）

## 17. 日本医学雑誌編集者組織委員会

日本医学雑誌編集者組織委員会は、平成 20 年に発足した。委員構成は、委員長：北村 聖（東京大学大学院医学系研究科附属医学教育国際研究センター教授）、委員：木内貴弘（東京大学医学部附属病院大学病院医療情報ネットワーク研究センター教授）、北川正路（東京慈恵会医科大学学術情報センター課長補佐）、津谷喜一郎（東京大学大学院薬学系研究科医薬政策学特任教授）、根岸正光（国立情報学研究所名誉教授）、三沢一成（特定非営利活動法人 医学中央雑誌刊行会専務理事）、湯浅保仁（東京医科歯科大学名誉教授）、吉岡俊正（東京女子医科大学理事長）の 8 名である。

第 15 回日本医学雑誌編集者組織委員会は、平成 26 年 7 月 23 日に開催した。①「医学雑誌編集のガイドライン」作成スケジュール、②医学雑誌編集のガイドラインの「医学研究の COI マネージメントに関するガイドライン」への対応、③第 7 回日本医学雑誌編集者会議（JAMJE）総会・第 7 回シンポジウム、④ APAME 2014（ウランバートル）（8 月 15 日～17 日）等について意見交換を行った。

第 16 回日本医学雑誌編集者組織委員会は、平成 27 年 3 月 3 日に開催予定。

## 18. 日本医学雑誌編集者会議 (JAMJE)

第7回日本医学雑誌編集者会議 (JAMJE) 総会・第7回シンポジウムは、平成26年11月5日に開催した。詳細は、日本医学会ホームページに掲載したので、参照いただきたい。

総会に引き続き、シンポジウムは、北村 聖 (日本医学雑誌編集者組織委員会委員長／東京大学医学教育国際研究センター教授)、湯浅保仁 (日本医学雑誌編集者組織委員会委員／東京医科歯科大学名誉教授) の司会の下、下記のプログラムで開催された。

- ・編集ガイドラインとCOI／津谷喜一郎 (東京大学大学院薬学系研究科医薬政策学特任教授)
- ・統一投稿規定から "Recommendations" へ：ICMJE2013年改訂／宮崎貴久子 (京都大学大学院医学研究科健康情報学助教)、中山健夫 (京都大学大学院医学研究科健康情報学教授)
- ・COPE とそのガイドライン／北村 聖 (日本医学雑誌編集者組織委員会委員長／東京大学医学教育国際研究センター教授)
- ・研究不正行為の実効性ある対応に向けて／安間敏雄 [内閣府政策統括官 (科学技術・イノベーション担当) 付参事官 (調査・分析担当)]
- ・ミスコンダクトと学会の対応－日本高血圧学会のケース－／楽木宏実 (日本高血圧学会理事／大阪大学大学院医学研究科老年・腎臓内科学教授)
- ・不正論文の元凶：ピペドとIF／榎木英介 (近畿大学医学部病理学教室講師)

## 19. 日本医学会あり方委員会「日本医学会総会のあり方に関する作業部会」

平成25年6月1日に発足した委員会で、委員は池田康夫 (日本専門医機構理事長)、岡井 崇 (日本医学会幹事／愛育病院病院長)、金澤一郎 (日本医学会幹事／国際医

療福祉大学大学院院長), 齋藤英彦 (日本医学会幹事/国立病院機構名古屋医療センター名誉院長), 日本医師会常任理事 (1名) の5名の委員で構成されている。

## 20. 移植関係学会合同委員会

平成4年4月に発足した移植関係学会合同委員会は厚労省, 日本医師会, 関係学会で構成されており, 世話人を日本医学会長が務めている。

第32回委員会は, 平成26年9月19日に厚生労働省9F省議室で開催した。主な議題は,

- (1) 脳死した者の身体から摘出された臓器の移植施設について
- (2) 臓器移植の適応評価の仕組みについて

## 21. 日本医学会だより

平成元(1989)年度より発行している日本医学会だより(JAMS News)は, 本年度, 5月にNo.51を, 10月にNo.52を発行した(綴じ込みの「日本医学会だより」を参照)。

## 22. 情報発信

平成12年10月に日本医学会のホームページを開設した。日本医学会分科会の協力を得て, 本会のホームページ(URL:<http://jams.med.or.jp/>)と分科会ホームページをリンクしている。

平成26年5月1日, 「臨床研究の法制化には慎重な対応を」を本会ホームページに掲載(綴じ込み参照)。

平成26年5月22日, 日本人間ドック学会, 健保連から出された「新たな健診の基

本検査の基準範囲」に関して日本医師会と合同記者会見を行い、「新たな健診の基本検査の基準範囲（日本人間ドック学会・健保連）に対する日本医師会・日本医学会の見解について」を本会ホームページに掲載（綴じ込み参照）。

さらに、平成26年7月23日、「日本人間ドック学会および健康保険組合連合会が公表した『新たな健診の基本検査の基準範囲』に対する日本医師会・日本医学会の見解について（補足）」を本会ホームページに掲載（綴じ込み参照）。

平成26年12月10日、日本医師会・日本医学会合同シンポジウム「子宮頸がんワクチンについて考える」終了後に日本医師会と合同記者会見を開催し、「12/10HPVシンポジウムを終えての座長とりまとめ」を高久日本医学会長より発表した（綴じ込み参照）。

平成26年12月24日、日本医師会の定例記者会見に高久日本医学会長が出席し、東京圏国家戦略特区における医学部新設問題について意見を述べた。

## 23. 会議等の開催数

日本医学会協議会（会長，副会長）	11回
日本医学会幹事会	1回
日本医学会役員会・幹事会打ち合わせ会	1回
日本医学会評議員会	1回
日本医学会シンポジウム	3回
日本医学会シンポジウム打ち合わせ会	3回
日本医学会公開フォーラム	2回
日本医学会公開フォーラム打ち合わせ会	2回
日本医学会シンポジウム企画委員会	2回
日本医学会シンポジウム組織委員会	0回
日本医学会公開フォーラム企画委員会	2回
日本医学会公開フォーラム組織委員会	0回

日本医学会医学用語管理委員会	2回
日本医学会分科会用語委員会	1回
医学用語打ち合わせ会	2回
日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会	1回
日本医学会加盟検討委員会	1回
日本医学会臨床部会運営委員会	0回
日本医学会臨床部会運営委員会「専門医制に関する委員会」	0回
日本医学会臨床部会運営委員会「遺伝子・健康・社会」検討委員会	3回
「母体血を用いた出生前遺伝子検査」の施設認定・登録部会	4回
日本医学会臨床部会運営委員会「がん領域に関する作業部会」	0回
日本医学会利益相反委員会	2回
日本医学会分科会利益相反会議	1回
日本医学雑誌編集者組織委員会	2回
日本医学雑誌編集者会議（JAMJE）	1回
3委員会委員長打ち合わせ会	1回
日本医学会あり方委員会「日本医学会総会のあり方に関する作業部会」	0回
移植関係学会合同委員会	1回
記者会見	5回

## 24. その他

- 1) 「日本医学会分科会一覧」を平成26年8月に作成，関係各方面に配付した。
- 2) 「平成27年日本医学会分科会総会一覧」を平成26年12月に関係各方面に配付した。
- 3) 「日本医師会年次報告書－平成26年度－」および「日本医師会会務報告」に，日本医学会関係の記事を掲載する予定。

# 日本医学会だより

JAMS News

2014年5月 No. 51  
日本医学会

## ◆第 81 回日本医学会定例評議員会

平成 26 年 2 月 19 日 (水) に開催された。平成 25 年度年次報告、平成 26 年度事業計画の報告の他、第 29 回日本医学会総会 2015 関西の準備状況の説明があった。平成 25 年度新規加盟学会は、日本肺癌学会、日本胃癌学会、日本造血細胞移植学会、日本ペインクリニック学会の 4 学会が承認され、122 学会となった。

また、一般社団法人日本医学会連合については 4 月 1 日登記予定であり、定款(案)、設立時役員追加、平成 26 年度会費等の提案が了承された。

この他、第 30 回日本医学会総会について会期[2019 年 4 月 12 日(金)~14 日(日)]、開催地(名古屋)、会頭(齋藤英彦名古屋医療センター名誉院長)が承認された他、「日本医学会 医学研究の COI マネージメントに関するガイドライン(2014 年 2 月改定案)」が諮られ、了承された。

## ◆第 29 回日本医学会総会 2015 関西

第 29 回日本医学会総会 2015 関西は、平成 27 年 4 月 11 日(土)~13 日(月)、井村裕夫会頭の下、「健康社会のためのきずなの構築—医学と医療制度の未来を拓く」をテーマに、国立京都国際会館を中心に関西地区での開催準備を進めており、平成 26 年 2 月 19 日(水)の記者発表会にて、学術講演、展示、イベントについて説明があった。

## ◆日本医学会加盟検討委員会

平成 25 年度第 1 回日本医学会加盟検討委員

会は、平成 25 年 11 月 8 日(金)に開催された。加盟申請の 22 学会についての審査を慎重に行い、その結果を平成 26 年 1 月 15 日(水)の日本医学会協議会で高久会長に報告した。

## ◆日本医学会臨床部会運営委員会

臨床部会運営委員会は、日本医学会分科会の 10 の基本領域学会と 2 つの Subspecialty 学会から構成されている。

運営委員会の組織としては、現在、「専門医制に関する委員会」、「がん領域に関する作業部会(平成 25 年 11 月発足)」、「『遺伝子・健康・社会』検討委員会」、その下部組織として「『母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査』施設認定・登録部会」の 4 つの委員会(含部会)がある。

「がん領域に関する作業部会」では 3 回の議論を経て、提言をまとめた。

## ◆日本医学会利益相反委員会

第 8 回利益相反委員会は、平成 25 年 5 月 24 日(金)に開催された。主な議題は、①日本循環器学会から Kyoto Heart Study 問題の調査報告、②日本医学会利益相反委員会報告(平成 25 年 3 月)、③医学関連 COI 問題協議会報告、④分科会への COI マネージメントアンケート調査、⑤「医学研究の COI マネージメントに関するガイドライン」の一部改訂、⑥第 4 回日本医学会分科会利益相反会議等であった。同日、高久会長、曾根三郎利益相反委員会委員長、永井良三日本循環器学会代表理事の三者が合同記者会見

を行い、同委員会での検討結果を報告した。

第9回利益相反委員会は平成26年2月28日(金)に開催された。「日本医学会 医学研究のCOIマネージメントに関するガイドライン[2014(平成26)年2月改定]の報告等の他、北村 聖日本医学雑誌編集者組織委員会委員長より日本医学雑誌編集者組織委員会の活動報告等が行われた。また、同日午後、日本医学会COIマネージメント研修セミナーが全国医学部長病院長会議と共催で日本医師会館大講堂にて開催された。

### ◆日本医学会医学用語管理委員会

平成25年12月16日(月)に平成25年度日本医学会分科会用語委員会を開催した。主な議題は「WHO-ICD分類のアップデート作業と社会保障審議会統計分科会疾病、傷害及び死因分類部会の検討状況について」、「WEB版の新機能について」、「日本内視鏡外科学会用語集の日本医学会医学用語辞典様式への変換について」他。

なお、従来、分科会会員と日本医師会会員のみ見ることのできた日本医学会医学用語辞典WEB版を平成26年4月から一般公開することが決定した。

### ◆第17回日本医学会公開フォーラム

「肺がん—最新のトピックス—」をテーマに、平成26年6月21日(土)13:00~16:00、日本医師会館大講堂において開催する(組織委員長:中川 健・がん研究会有明病院名誉院長)。市民を対象とした公開フォーラムであり、参加希望者は、郵便はがき、FAX、本会ホームページ(<http://jams.med.or.jp/>)のいずれかの方法で申し込まれたい。参加費無料。プログラムは、下記のとおり。終了後、ホームページにて映像配信する。

1. 肺がん序論/中川 健(がん研究会有明病院名誉院長)、2. 肺がんの遺伝子研究—ALKの発見と臨床応用—/間野博行(東京大学大学院医学系研究科教授・細胞情報学)、3. 肺がんの外

科療法—特に低侵襲の胸腔鏡手術について/河野 匡(虎の門病院呼吸器センター外科部長)、4. 肺がんの放射線療法—適応と治療技術の進歩—/早川和重(北里大学医学部教授・放射線腫瘍学)、5. 肺がんの薬物療法—個別化治療の時代—/西尾誠人(がん研究会有明病院呼吸器内科部長)

### ◆日本医学会特別シンポジウム

今回のシンポジウムは第29回日本医学会総会2015関西プレイベントとして「健康社会をめざす医学・医療の新たな展開」をテーマに、7月10日(木)13:00~17:00、グランフロント大阪で開催予定。参加費無料。終了後、ホームページにて映像配信する。

申し込み・詳細は日本医学会ホームページご参照。

### ◆医学賞・医学研究奨励賞

平成26年度日本医師会医学賞・医学研究奨励賞(旧医学研究助成費)の推薦依頼を日本医師会雑誌の5月号に公示。要項は本会に問い合わせいただきたい。受付期間は、5月15日(木)~7月4日(金)。推薦書は、公示日より日本医師会ホームページ(<http://www.med.or.jp/>)からダウンロードできる。

### ◆日本医学会への加盟申請

平成26年度の日本医学会への新規加盟申請は、5月15日(木)に公示(日本医師会雑誌等)し、7月31日(木)に締め切る。申請書は、公示日から本会ホームページ(<http://jams.med.or.jp/>)からダウンロードできる。

### ◆移植関係学会合同委員会

平成4年4月に発足した本委員会は厚労省、日本医師会、関係学会で構成されており、世話を日本医学会長が務めている。

本年開催の第31回委員会から、審査の迅速化を図るために持ち回り開催とし、移植施設の新規認定、取り下げ等を決定した。

# 日本医学会だより

JAMS News

2014年10月 No.52  
日本医学会

## ◆日本医学会シンポジウム

第146回シンポジウムは「がんの非侵襲的診断法の最前線」をテーマに、12月18日(木)13:00~17:00, 日本医師会館大講堂において開催する。組織委員は、坂元亨宇, 西尾和人, 藤井博史の各氏。参加申込みは郵便はがき, FAX, 本会HP (<http://jams.med.or.jp/>) にて受付中。参加費無料。詳細はHPに掲載。

## ◆日本医師会・日本医学会合同シンポジウム

「子宮頸がんワクチンについて考える」をテーマに、12月10日(水)13:00~16:30, 日本医師会館大講堂において日本医師会と合同でシンポジウムを開催する(総合司会:小森 貴日本医師会常任理事。座長:高久史磨日本医学会長)。詳細は本会HPに掲載予定。参加費無料。

## ◆医学賞・医学研究奨励賞の決定

選考委員会を9月3日に開催し、平成26年度の日本医師会医学賞・医学研究奨励賞の授賞が決定した。

本選考は、日本医師会から日本医学会に委任されており、今年度の推薦数:医学賞19, 奨励賞25を審査した。

選考の結果、11月1日の日本医師会設立記念医学大会において、今年度の医学賞は3名, 奨励賞は14名に授与される。

選考の結果は下記のとおり。

〈日本医師会医学賞〉

- ・ピロリ菌による胃癌発症の分子機構/畠山昌則(東大・微生物学)
- ・癌の分子標的予防法の確立とその応用に向けての研究/酒井敏行(京府医大・分子標的癌予防医学)
- ・自己免疫疾患に対する分子生物学的解析/山本一彦(東大・アレルギー・リウマチ学)

〈日本医師会医学研究奨励賞〉

- ・中枢神経・肝臓クロストークの分子メカニズムの解明/井上 啓(金沢大脳・肝インターフェースメディシン研究センター)
- ・筋萎縮性側索硬化症の新規モデル動物作成による発症病態の解明/河原行郎(阪大・神経遺伝子学)
- ・癌細胞特異的なTGF- $\beta$ シグナル伝達制御機構の統合的同定解析/鯉沼代造(東大・分子病理学)
- ・癌上皮間葉移行におけるmicroRNA転写機構の解明/水口義昭(日医大・消化器外科学)
- ・下部尿路機能障害における全身および局所血流障害からみた病態解明と臨床応用/松本成史(旭川医大・腎泌尿器外科学)
- ・滲出型加齢黄斑変性の発症, 進展における全身的因子の解析/柳 靖雄(東大・眼科学)
- ・超高齢化社会における失明予防のための緑内障ビックデータによるデータマイニング/中澤徹(東北大・眼科学)
- ・遺伝性不整脈の新たな原因遺伝子と機序の解明ならびに個別化療法の確立/渡部 裕(新潟大・循環器内科学)

- ・心筋症の発症・進展における樹状細胞の意義/安齊俊久(国立循環器病研究センター)
- ・思春期特発性側弯症に対する次世代型3次元変形矯正固定術: アナトミカル・ロッドを用いたオーダーメイド外科治療への展開/須藤英毅(北大・脊椎・脊髄先端医学)
- ・内耳再生医療をめざした内耳薬物動態の解明/神崎 晶(慶大・耳鼻咽喉科学)
- ・ヒト人工多機能幹細胞由来心筋細胞 Extracellular matrix (ECM) グラフトを用いた心不全治療の開発/宮城泰雄(日医大・心臓血管外科学)
- ・増殖因子と細胞内シグナル制御による糖尿病網膜症の病的血管の再生治療/鈴間 潔(長崎大・眼科学)
- ・ヒト無精子症の病態解明および臨床医学への応用/宮本敏伸(旭川医大・産婦人科学)

### ◆日本医学会分科会利益相反会議

「医学研究のグローバル化と COI マネージメント」をシンポジウムテーマとした第5回日本医学会分科会利益相反会議を曾根三郎日本医学会利益相反委員会委員長の総合司会の下、11月28日(金)13:00~16:20、日本医師会館大講堂にて開催する。参加希望者は、本会ホームページ(<http://jams.med.or.jp/>)にて、申し込まれたい。先着80名。参加費無料。

当日は総会に引き続き、「日本医学会分科会における COI マネージメントのアンケート結果報告」「フォルタレザ改訂ヘルシンキ宣言の基本理念と臨床研究—作業部会の一員として—」「欧米の臨床研究にかかる COI マネージメントの現状と動向」「製薬企業による研究機関への研究支援とその公開の在り方」「臨床研究にかかる企

業の役務提供をどう考えるか」のそれぞれの講演が行われる予定。

### ◆日本医学雑誌編集者会議

「不正論文と編集者の責務」をシンポジウムテーマとした第7回日本医学雑誌編集者会議(JAMJE)総会・第7回シンポジウムを北村聖日本医学雑誌編集者組織委員会委員長の総合司会の下、11月5日(水)13:00~16:30、日本医師会館大講堂にて開催する。参加希望者は、本会ホームページ(<http://jams.med.or.jp/>)にて、申し込まれたい。先着80名。参加費無料。

当日は総会に引き続き、「編集ガイドラインとCOI」、「統一投稿規定から“Recommendations”へ: ICMJE2013年改訂」、「COPEとそのガイドライン」、「研究不正行為の実効性ある対応に向けて」、「ミスコンダクトと学会の対応—日本高血圧学会のケース—」、「不正論文の元凶: ピペドとIF」のそれぞれの講演が行われる予定。

### ◆移植関係学会合同委員会

第32回移植関係学会合同委員会が9月19日、厚生労働省で開催された。脳死下臓器移植の進展を踏まえ、より効果的な施設認定・取り消しを行う仕組みの検討が協議された。従来、移植施設が患者を日本臓器移植ネットワーク(JOT)に登録する際は臓器別の関係学会による適応検討を受けていたが、今後は一定の基準を満たした施設であれば施設内の適応評価のみでJOTへの登録を可能とすること、関係学会は移植の実施状況について事後的に把握すること等が承認された。今後、厚労省にガイドラインの改正について検討を求めることになった。

平成 26 年 5 月 1 日

## 臨床研究の法制化には慎重な対応を

日本医学会長 高久 史磨

最近、臨床研究を対象とした規制強化に向けた検討会が発足し、法制化を含めた規制強化の検討が始まっている。臨床研究の実施に際しての研究者と製薬企業関係者との間での不透明な関係がしばしば報道されている現状をみると、国が臨床研究の規制強化を検討する事は理解できないわけではなく、この点に関して臨床研究者には反省すべき点が数多くあると考える。

しかし、臨床研究は臨床医学の発展にとって必須なものであり、その規制強化によって、我が国の臨床研究が停滞、あるいは質の低下を招く事がない様、法制化の可否について慎重に検討する事を強く要望する。

平成 26 年 5 月 21 日

## 新たな健診の基本検査の基準範囲（日本人間ドック学会・健保連） に対する日本医師会・日本医学会の見解について

公益社団法人 日本医師会  
日本医学会

本年 4 月、日本人間ドック学会および健康保険組合連合会は、両団体で設置した「検査基準値及び有効性に関する調査研究小委員会」（以下、小委員会という）がとりまとめた「新たな健診の基本検査の基準範囲－日本人間ドック学会と健保連による 150 万人のメガスタディ」を公表した。

同報告によれば、人間ドック受診者約 150 万人のデータから、約 34 万人の「健康人」を抽出し、そのなかから 7 分の 1 をランダムに抽出したうえで統計的な異常値除外処理をした約 1 万～1 万 5 千人（超健康人・スーパーノーマルの人）の検査値から、新たに血圧、BMI、血糖、コレステロール等、27 項目の基準範囲を設定したとしている。

一例をあげると、

・収縮期血圧：従来基準値 = 129mmHg

今回の報告 = 下限 88mmHg, 上限 147mmHg

・拡張期血圧：従来基準値 = 84mmHg 以下

今回の報告 = 下限 51mmHg, 上限 94mmHg

と従来の基準値から大きく変化している。

これらの結果について、新聞、テレビをはじめ多くのメディアがとり上げ、「血圧 147 は健康」などと報じ、国民にとっては、各検査値に 2 種類の基準値が示されたこととなり、医療現場は大きな混乱を来している。また、今回の新たな基準範囲の設定と公表により、関係学会も困惑しそれぞれ見解を出している。

そもそも今回の報告書によれば、「今回設定した基準範囲は各専門学会が推挙する基準値とは定義や設定方法が異なるので、同一には比較できない」としながらも、一方で

「今後健診機関の共用基準範囲として健診の場で用いられることが期待される」として  
いる。

基準値は、従来各専門学会が諸外国などの基準値なども参考にしながら、日本人の身体的特性を考慮し、例えば、血圧値、コレステロール値等では、将来起こりうる心血管病（冠動脈疾患や脳卒中）発症のリスク評価を行った久山町研究、大迫研究、NIPPONDATA80などの長期コホート（前向き追跡）研究などにより十分な検討を経て設定されているものである。

また、各学会が示している基準値は、必ずしもこれに該当しなければ一律に薬物治療などの「要治療」に該当するとしているわけではなく、個々の患者の病歴、家族歴、運動や食事、喫煙、飲酒などの生活習慣なども考慮して、それぞれの医師が治療を含めた方針を決定するための指標である。

今回人間ドック学会が個々の基準値について関係専門学会と事前の十分な検討・協議もないままに唐突に新たな値を公表したことは、多くの国民に誤解を与え、医療現場の混乱を招いている実態に鑑みても、「拙速」と言わざるを得ない。

小委員会が公表した報告書には、本研究の特徴として150万人の人間ドック受診者の検査データを分析した「今までになくエビデンスレベルの非常に高いデータ」と記載されており、たしかにメガデータであることは間違いがないが、リスク評価のできない大規模横断調査であって、決して将来の疾病発症を予測できる前向き追跡コホート研究でないことから、エビデンスが高いとは言えないものである。さらに、報告書の後段には「したがって今回の基準範囲の人間ドックに於ける運用に関しては今後の本学会及び健保連にて充分議論した後に進めていくべきと考える。さらに、今回のいわゆる健康人のデータを5～10年間追跡調査を行い、基準範囲の妥当性を検討する必要がある」と述べているように、疫学的にも予防医学的観点からもエビデンスを確定したうえで公表すべきで、そのエビデンスの判断を関係学会と検討することは当然である。

具体的には、今回「健康人」と定義した対象者について、その後の各検査値の変化等を検証することや、「健康人」以外の人間ドック受診者について、医療の介入の有無による影響等（罹患率や死亡率、介護度などのエンドポイント）を的確に把握し疾病発症リスクを算出することである。

また、今回の報告書では、新たな基準範囲の設定の目的を「人間ドック健診の有用性をより明確にし、多くの加入者の生活の質の向上と医療費適正化に資する」ことと明記している。

医療費の適正化は、適切な健診受診等により「結果」として派生するものであり、適正化自体を目的とした基準範囲の設定であれば、本末転倒と言わざるを得ない。

言うまでもなく、健診の意義は、疾病やそのリスクの早期発見であり、適切な医療等の早期介入により、個々人の健康の維持・増進を図ることにある。

各メディアにおかれては、このことを十分に理解したうえで適切な報道をお願いするとともに、人間ドック学会と健保連におかれては、早急に日本医学会、関係専門学会等との十分かつ慎重な検討を行うなどの対応を求めたい。

平成 26 年 7 月 23 日

## 日本人間ドック学会および健康保険組合連合会が公表した 「新たな健診の基本検査の基準範囲」 に対する日本医師会・日本医学会の見解について（補足）

公益社団法人 日本医師会

日本医学会

本年 4 月、日本人間ドック学会（人間ドック学会）および健康保険組合連合会（健保連）が公表した「新たな健診の基本検査の基準範囲」に関しては、新聞、テレビをはじめ多くのメディアがとり上げた。残念ながら医療現場に混乱が生じたことに対して、日本医師会・日本医学会としての見解を本年 5 月 21 日に示した。その後も、本件に関して、広く正しい理解が得られたとは考えられず、改めて、ここに補足の見解を示す。

通常、検査の「基準値」と言われているものには「基準範囲」と「臨床判断値」があるが、この両者は意味するところが全く違っており、明確に区別すべきものである。

今回、人間ドック学会・健保連が公表したのは「基準範囲」であり、これは、多くの健常人から得られた検査値を多数集めて、その分布の中央 95% を含む数値範囲を統計学的に算出したものである。従って、基準範囲は、検査結果を評価する際の物差しとなる数値と考えてよいが、疾病の診断、将来の疾病発症の予測、治療の目標などの目的に使用することは難しい。

一方、各種専門学会等により提唱されている診断基準の中で用いられている検査の基準値は「臨床判断値」である。例えば、日本動脈硬化学会の脂質異常症の診断基準に記載されているものなどがその代表であり、これは、疫学的調査研究に基づいて将来の虚血性心疾患の発症が予測され、予防医学的な対応が要求される検査の閾値、つまり、予防医学的閾値という代表的な臨床判断値である。

以上のように、基準範囲と臨床判断値は全く異なる概念から生まれた数値であり、基準範囲（の上限值・下限値）と臨床判断値は異なるのが当然である。そして、疾病の診断、

将来の疾病発症の予測，治療の目標に用いられるべきは臨床判断値である．

各メディアに対しては，このことを十分に理解したうえで適切な報道をお願いするとともに，人間ドック学会・健保連に対しても，この理解を世間に周知いただく努力をお願いしたい．

## 12/10 HPV シンポジウムを終えての座長とりまとめ

- 1 HPV ワクチン接種後に発生した症状とワクチンとの因果関係の有無および病態については、本日のシンポジウムでも示されたように、専門家の間でもいくつかの異なる見解がある。今後も専門家による究明の努力が重要であると考える。
- 2 これらの症状を呈した被接種者に対しては、HPV ワクチン接種との因果関係の有無や病態にかかわらず、その回復にむけて、日本医師会・医学会が行政とともに、治療・支援体制を強化することが大切である。
- 3 ワクチンには接種をすることによるリスク（副反応）としないことによるリスク（疾病予防機会の喪失）の両面があることを踏まえ、国においては、引き続きワクチン接種のあり方について、現時点で得られている科学的根拠に基づいた検証を行い、結論を得るべく努められたい。